

エイジフレンドリーシティの概要

1 エイジフレンドリーシティとは

正式名称は「Age Friendly Cities and Communities」。世界的な高齢化と都市化に対応するために、「高齢者に優しいまちがあらゆる世代に優しいまちになる」という趣旨により、世界保健機関（以下「WHO」という。）が平成 22 年に立ち上げた、高齢者に優しい都市づくりに取り組む自治体等の国際的なネットワークです。

2 エイジフレンドリーシティネットワークへの参加

茅ヶ崎市は、神奈川県呼びかけにより、平成 30 年 10 月 6 日に「エイジフレンドリーシティ」への参加を承認されました。



【ME-BYO シンポジウム 2018 での参加承認証明書授与式にて】



【参加承認証】

< 県内自治体の参加状況 令和 3 年 9 月 27 日時点 >

- ・ 県内参加自治体は 22 市町：横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町、大和市、藤沢市、伊勢原市、大磯町、小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町、茅ヶ崎市、秦野市、二宮町

※神奈川県は、市町村間の情報共有等を支援し、高齢者に優しい地域づくりを進展させる役割を担う「アフィリエイト」として、エイジフレンドリーシティに参加しています。

3 行動計画について

高齢者に優しいまちへの取り組みは、WHO の提唱する 8 つのトピックに基づき、行動計画を策定し、実施・評価・改善という継続的な取り組みを行うこととされております。

< WHO の提唱する 8 つのトピック >

- ①屋外スペースと建物
- ②交通機関
- ③住居
- ④社会参加
- ⑤尊厳と社会の構成員としての取り組み
- ⑥市民参加と雇用
- ⑦コミュニケーションと情報
- ⑧地域社会の支援と保健サービス

